

simc News Letter

Sendai International Music Competition

仙台国際音楽コンクールニュースレター

第6回仙台国際音楽コンクール 【開催日程】ヴァイオリン部門:2016.5.21(土)~6.5(日) ピアノ部門:2016.6.11(土)~6.26(日)

第6回仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門 セミファイナル第3日目演奏レポート

松本 學(音楽評論家)

第6回を迎えた仙台国際音楽コンクール。セミファイナルをすべて聴いてみて、前回以上にかなり高いレベルだと感じた。コンテスタントたちはそれぞれが独自の音楽的個性を持った演奏を聴かせており、出場者のよしあし云々よりも、その内容の違いを聴き分け、音楽と彼らの持つ豊かな可能性を楽しめる回になっていると思う。



6 藤江 扶紀(日本)

シューマン / ヴァイオリン協奏曲 二短調
ラヴェル / ツィガーヌ

堅実かつ情感豊かで清潔感のある音楽家

シューマンは音の線はやや細めだが、しっかりと堅実で、かつ情感も豊かな演奏を聴かせてくれた。流れがよく清潔感のある音楽をするヴァイオリニストだ。第1楽章で提示部終わり、展開部の第2主題途中(クラリネットが出る直前)、再現部の重音部などでわずかにピッチが乱れたり、フィナーレ最後の下降スケールの連続で疲れが見えたりもしたが、全体としてはとてもクリアで美しく、誠実な演奏。ヴィブラートの使い分けなどもよい。なお、第1楽章の終わりにある8小節間の重音の3連符の刻みは、前半を3連符のまま弾き、後半になってから刻みにするなどアイデアを利かせていた。

《ツィガーヌ》では前半の独奏部がとても丁寧な秀演。音色の変化やアゴーギクなどにアイデアもあり、オケが入ってからのエスプレシーヴォ(練習番号9)の音色や、モデラート部2、12小節目(同20、21の各2小節目)のグリッサンドなどは効果的だった。また、演奏とは別のことだが、45度の角度でする彼女のお辞儀は、とても微笑ましく思う。



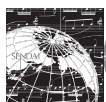
22 小川 響子(日本)

シューマン / ヴァイオリン協奏曲 二短調
サラサーテ / カルメン幻想曲 op.25

ニュートラルな歌い方と、アンサンブルを楽しむ余裕を見せた《カルメン幻想曲》

シューマンでは曲の魅力を十分に伝える歌い方に好感を持った。ただ緊張からか、前半で音程が必ずしもピタリとはまらないことがあり、それが尾を引いたせいか(途中まで)作品に乗り切れなかったのが勿体ない。もちろん、トータルとしては立派な演奏である。

彼女の魅力が一層発揮されたのはサラサーテ《カルメン幻想曲》。冒頭の野太いG線の響きから素晴らしく、音色、デチューンなど様々に駆使して、水を得た魚のように生き生きとした音楽を聴かせた。シューマンの時よりも余裕が出たようで、最初の《アラゴネーズ》の締めくくりのピッツィカートをはじめ、時折オーケストラに目配せをするなど、彼らとのアンサンブルを楽しむ様子もうかがえた。ラストの疾走感も鮮やか。



■お問い合わせ先 / 公益財団法人 仙台市市民文化事業団 仙台国際音楽コンクール事務局

〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 Tel: 022-727-1872 Fax: 022-727-1873 E-mail: info@simc.jp URL: http://www.simc.jp/



10 メルエルト・カルメノワ (カザフスタン)

シューマン / ヴァイオリン協奏曲 二短調
ラヴェル / ツィガーヌ

情緒過多に偏らない、着実な音楽造り

正統派と呼びたくなる演奏スタイルでピッチもよい。長身ですらりと伸びた長いリーチを活かして弓の端から端までを楽々と使いこなしている。派手なアピールはしないが、舞台映えするタイプ。シューマンでは特に第2楽章が興味深く、しっかりと歌っているのだが、情緒過多でなく、ウェットにならない。そのため、よりピュアな世界として広がっているようだった。第3楽章では、練習番号K(35小節)の1小節前から3小節間の暗譜が飛んでしまったが、和声を合わせ、乗り切った。また、リズム処理など、時に準備不足を感じさせる部分がなきにしもあらず。これらのミス(とそのリカヴァリー)を審査委員がどうとらえるのかは気になるところだ。

なお、彼女も初日に登場したスヴィエツェナーや黒川と同様ショット旧版を使用。ただし、重音の3連符は新校訂版に沿って刻んでおり、フィナーレの188小節目は3点でなく2点イ音に下がっていた。

《ツィガーヌ》も、芝居っ気はないが着実。彼女自身も楽しんで演奏していた。



23 岡本 誠司(日本)

シューマン / ヴァイオリン協奏曲 二短調
ラヴェル / ツィガーヌ

風格を漂わせる余裕の演奏

ステージに出てくるところから自信に溢れた様子で、実際、演奏は堂々としたものだった。音もしっかりと鳴って、十分に客席に届く。シューマンでは第1楽章冒頭2小節目のアカコードを藤江、小川同様に前打音を入れずに演奏(新校訂版に準拠していることがわかる)。第2主題も雰囲気ガラリと変えて聴かせた。数か所ピッチが揺れた箇所もあるが、全体を通してヴィブラートを適切に使い分け、音のニュアンスも多く、フレーズ感やアーティキュレーションの明確な音楽を聴かせた。

《ツィガーヌ》はこれまた余裕綽々といった様子で、前半の独奏部も表情豊かだが、オケが入ってからは尚一層多彩な表現を披露した。周囲をその気にさせる力もあるようで、彼を相手にオケのレスポンスが上がっているのがわかる。練習番号21からのハーブと絡むテンポの伸縮のタイミングやラストのオケとの呼吸もピッタリ。

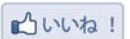
コンクールの演奏をYouTubeでお楽しみいただけます。

第6回仙台国際音楽コンクールでは、全てのステージをライブで配信します。

また、すべての演奏を9月末までの期間でYouTube配信も行います。

<http://simc.jp/simc/top/>

最新情報はFacebookから!!



仙台国際音楽コンクール公式Facebookでも最新情報を配信しております。

<https://www.facebook.com/SendaiInternationalMusicCompetition>

第6回仙台国際音楽コンクールチケット情報

	ヴァイオリン部門	ピアノ部門	座席	料金
予選 各部門概ね36名	5月21日(土) 終了 22日(日) 終了 23日(月) 終了	6月11日(土) 10:00~ 12日(日) 10:00~ 13日(月) 10:00~	全席自由 (日付指定)	1,000円
セミファイナル 各部門12名	5月27日(金) 終了 28日(土) 終了 29日(日) 終了	6月17日(金) 18:00~ 18日(土) 14:00~ 19日(日) 14:00~	全席指定	S席3,000円 A席2,000円
ファイナル 各部門6名	6月2日(木) 18:30~ 3日(金) 18:30~ 4日(土) 15:00~	6月23日(木) 18:30~ 24日(金) 18:30~ 25日(土) 完売	全席指定	S席3,000円 A席2,000円
入賞者記念 ガラコンサート 各部門1位から3位	6月5日(日) 完売	6月26日(日) 完売	全席指定	S席4,000円 A席3,000円

【プレイガイド】

●ローソンチケット

Lコード: 26661 (ヴァイオリン部門)
: 26662 (ピアノ部門)

●チケットぴあ

Pコード: 284-653 (両部門共通)

●仙台三越

●日立システムズホール仙台1階事務室
(仙台市青年文化センター)

●イズミティ21(1階事務室)



お問い合わせ先 / 公益財団法人 仙台市市民文化事業団 仙台国際音楽コンクール事務局

〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 Tel: 022-727-1872 Fax: 022-727-1873 E-mail: info@simc.jp URL: http://www.simc.jp/